

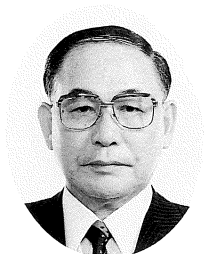
ふらかわ

1988年(昭和63年)12月



財団法人

鹿児島市動物公園協会



ご あ い さ つ

鹿児島市長 赤崎 義 則

平川動物公園は昭和47年開園して以来今年で17年目を迎えますが、その間鹿児島市民はもとより広く県民の皆さん県外の皆さんに憩いの場として、あるいは教育の場として親しまれてきました。

入園者数も今年の8月1,000万人を突破しました。これは毎年63万人の人が動物と親まれたことになり大変喜ばしいことと思います。

今年は友好都市の中国・長沙市から「レッサーパンダ」が初めてお目見えしましたし、日本で初めて「コアラ3世」の誕生が確実となりました。

また、郷土の動物である「アマミノクロウサギ」や「ナベヅル」も毎年繁殖に成功しております。

今後も動物公園の施設や内容の充実を図り皆さんに愛され親しまれる動物公園にしていきたいと思います。

◀ 表 紙

レッサーパンダ(Lesser Panda)

食肉目 アライグマ科

ヒマラヤ、ビルマから中国南部の山岳地帯の森林、竹林に生息している貴重な動物です。体色は栗色～茶かっ色で、顔は白と茶かっ色の可愛い模様で、尾には淡かっ色の輪が9つぐらいあり美しい小型の動物です。食べ物は果実、タケノコ、竹の葉、昆虫などを食べます。当園のレッサーパンダは友好都市中国長沙市より、昭和63年7月26日贈られました。

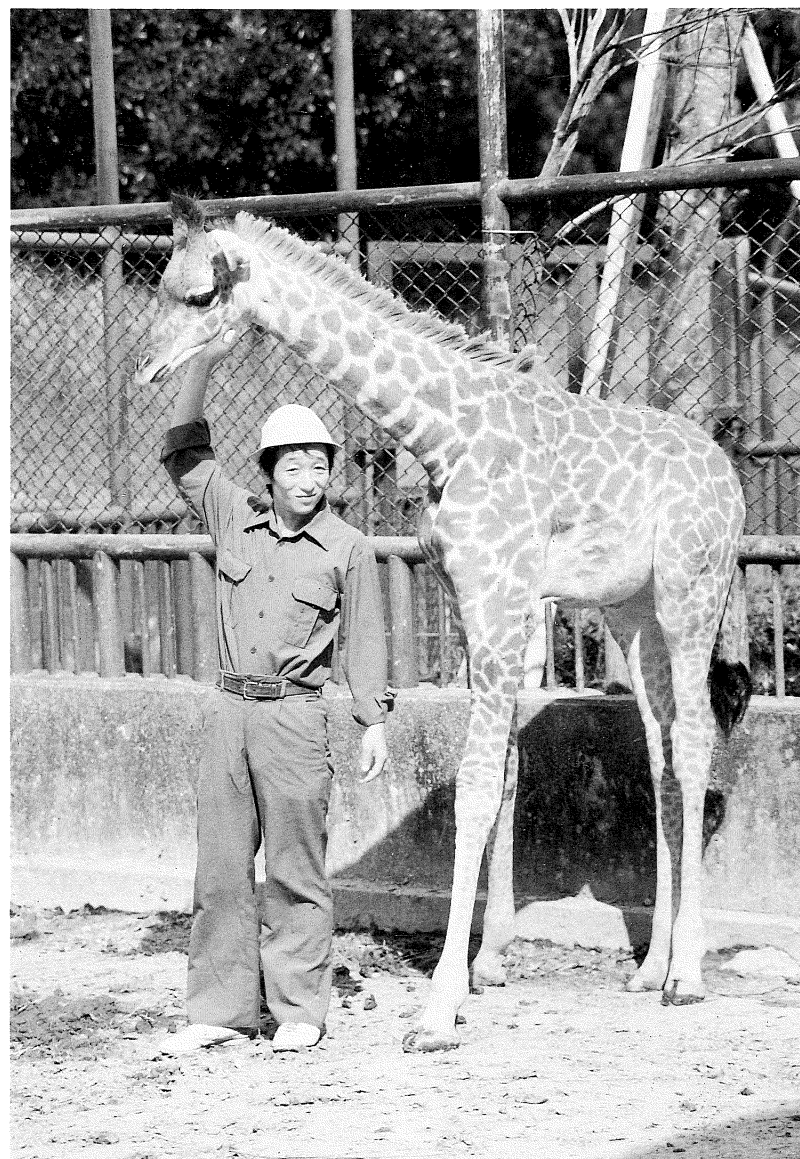
▼ 行 事

1989年1月2日～1月3日 お正月お年玉大会
3月中旬～4月末日 動物公園春まつり
5月3日～5月5日 こどもの日まつり

▼ 飼育動物数(1988年12月現在)

ほ乳類	81種	347点
鳥類	83種	658点
は虫類	8種	12点
計	172種	1017点

マサイキリン人工哺育に成功！



1987年6月26日かわいいマサイキリンの赤ちゃんが生まれましたが、自力で立上がれず、係員は毎日立上がるよう練習させながら人工哺乳に努めました。

写真のように大きくなり、元気で育っています。(満枝技師)

動物公園の一コマ！

▶ 昭和63年1月3日動物公園遊園地での
楽しい一日です。



◀ ▼ メルヘンの世界を見るような、かわいらしい時計台が完成しました。
左は園児によるテープカットです。
時計台は15分置きに「しらゆきひめ」や小人、動物が動き出します。(昭63.3.26)



▼ 5月3日～5日まで、たのしい「こどもまつり」が開催され、一日中こどもたちの笑い声が園内にいっぱいでした。



▲ 彩も鮮やかにショウブ園のハナショウブが
いっぱい開花しました。(昭63.6.2)



◀ 友好都市中国長沙市より
珍獣「レッサーパンダ」が贈られました。
園内での歓迎式 (昭63.7.26)



◀ ▲ 赤崎鹿児島市長と肖常錫団長がクス玉を割ると、紅紅(ホンホン、雄)が、早速顔を出しごあいさつ。咪咪(ミーミー、雌)は、はにかしいのか部屋の中です。

▶ 平川動物公園の入園者
1,000万人を突破！

昭和47年10月開園以来、昭和63年8月8日遂に1,000万人目の入園者を迎えました。

幸運の入園者は鹿児島市の村井千晴さん、前後賞は長男の太郎君とおばあちゃんでした。

記念品の自転車とレッサーパンダのぬいぐるみに大喜びの村井さん一家でした。





友好都市、中国長沙市へ動物 交換訪問団出発！(昭63.9.6)

◀ 中国長沙市での訪問団 歓迎式 (昭63.9.9)

間世田団長(市建設局長)の
あいさつ



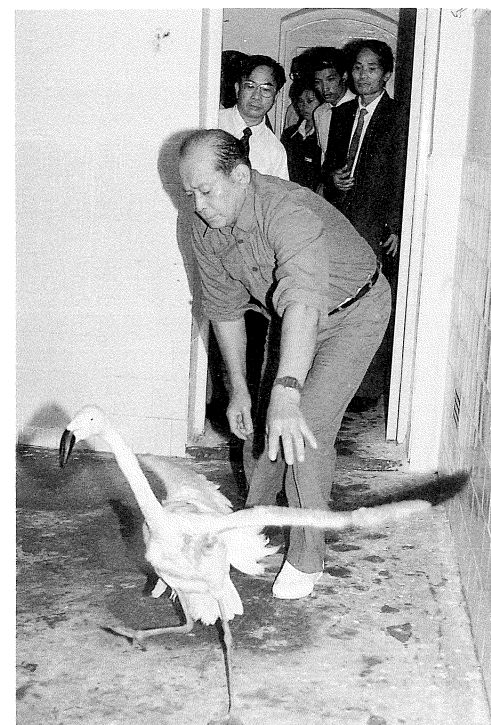
▶ 小雨降る中で、小学生による
熱烈歓迎に訪問団員も感激し
ました。



◀ 小学校訪問をしました
日本の童謡「さくら さくら」で
迎えていただきました。

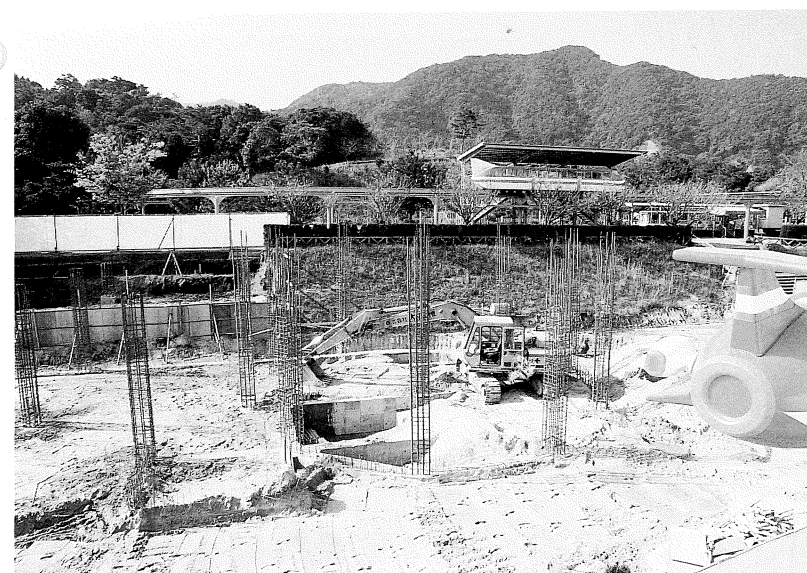


▶ 小学生の合唱で訪問団員も
心なごむ思いでした。



▲▶ 訪問団員久永利雄さん(平川動物公園、主査)の手により、交換動物
フラミンゴ(6羽)、チンパンジー(2頭)が長沙市動物園の動物舎に無
事に収容されました。チンパンジー君が別れを惜しんでいます。

遊園地・遊具センター建設始まる！



遊具センターは、昭和
64年3月末で完成します。
どうぞ、お楽しみにお待
ち下さい！

4月からの皆様のご来
園を心からお待ち致して
おります。

中国の動物園

平川動物公園

主査 久永利雄

本年9月、中国長沙市との動物交換使節団の一員として訪中する機会を得ました。友好親善の貴重な動物を無事長沙市に送り届ける役目と中国の動物園を見聞し、すぐれた点を一つでも多く吸収したい気持ちでした。

私達動物公園に勤務するものとしては、中国の動物園の規模、飼育技術、飼料、管理、どんな動物が飼育されているのか興味ある問題でした。

上海に一泊して朝早く上海動物園に行きました。園長さん始め、長沙市動物園から出迎えの6名もまじえて上海動物園の概況を説明され園内を案内していただきました。1955年に開園し面積70ヘクタール、349種類2,300点の動物が飼育され園内は大きな樹木が多く林の中に動物舎が作られて動物も大樹の陰でのんびり過しているようでした。上海市民の憩いの場所として年中無休の動物園です。公園内は綺麗で塵一つないのが印象的でした。中国では、公的な所では汚したり、いたづらをした時はすぐ罰金5元を取られるそうで、この点は行きとどいているようです。中国では開放政策後、動物の輸入が盛んになり、上海動物園でもたくさんの動物が展示しており、繁

殖も多く見られました。動物園も古い建物を取りこわし新しく近代的な動物舎が造られ、周辺の街もビルラッシュです。

長沙市動物園は市街地の小高い所にあり、樹木の中に中国産の小型の動物を主体にした動物園で種類も数も少なく動物舎も古く感じました。園長さんの説明によりますと二年後に郊外に大きな動物園を建設するとの事で、今その準備中であるとの事です。

鹿児島から贈られたシマ馬やマントヒヒも元気でいました。マントヒヒは子供が生れ、現在人工哺育中です。飼育技術、管理、飼料など中国では精一杯やっているだろうが、まだ研究の余地もあり、能率の面でも考えさせられる面も一杯ありました。

中国の首都北京動物園は、上海動物園より一まわり大きく、動物も中国産を始め世界各国から輸入し展示してあります。特に爬虫類館、南米猿館は日本では見られない立派な展

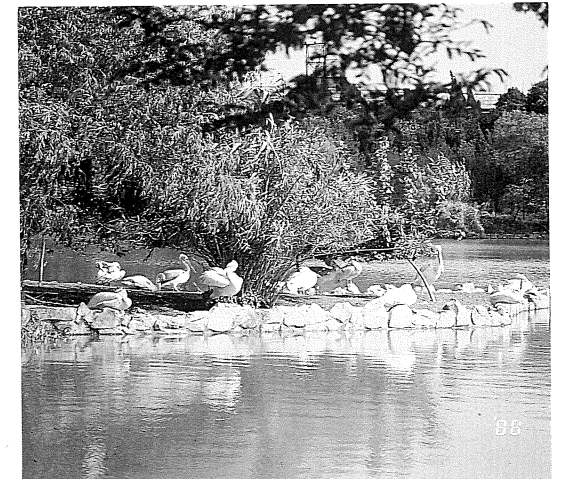


▲ 長沙市動物園のジャイアントパンダにあいさつする動物交換訪問団員。

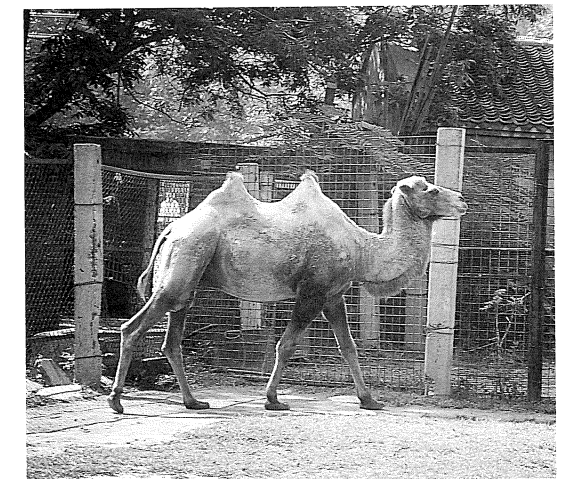
示館でした。中国では現在、世界各国と友好を図り繁栄の為、外交に力を入れているようです。私達が見学に行った日もスリランカより象が贈られ、歓迎式があるところでした。

園内ではパンダを始め、金絲猴、レッサーパンダ、丹頂鶴など中国の代表動物やラクダの原種など広い園内、大きな樹林など中国の顔を見た様な気がしました。

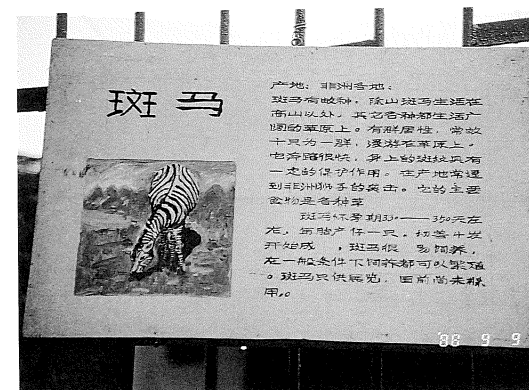
広大な土地と14億の人口をもつ発展途上国中国はますます発展するでしょう。私達は中国の表通りしか見聞出来なかったが中国人民の心の優しさには感服しました。良かった点、悪かった点、いくつかありますが、それぞれの国の政策で違うだけであって問題はないと思います。これからも長沙市との友好親善をさらに深め、動物交換も積極的に進めていただき、友好の輪を広げていけば尚一層親密になると考えます。(1988.11.28)



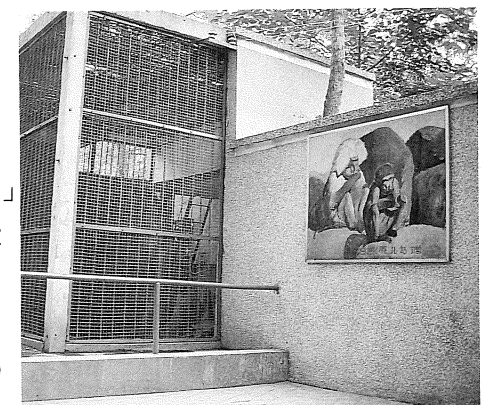
▲ ペリカン、タンチョウなどが広い池に放し飼いにされていました。(上海動物園)



▲ 野生の貴重なフタコブラクダが飼われていました。(北京動物園)



平川動物公園から贈りました
◀「シマウマ」
▶「マントヒヒ」
の案内看板が大きく目につきました。
(長沙市動物園)



マサイキリン人工哺乳の一例について

平川動物公園

技師 満枝修作

技師 内山俊弘

獣医師 上敷領 隆

I はじめに

1987年6月26日キリン♀タカコが♂の子を出産したが自力で起立できず、隔離して完全人工哺乳を行った。キリンの例は、他の園でもあるが親が哺乳をきらっての例が多く、今回のように子が起立できずに人工哺乳を行った例は稀ではないかと思われるので、その概要を報告する。当園では1984年にも成功した例がある。

II 親の経歴

父親タカオは1973年11月25日に来園、母親タカコは1976年当園生れである。母親タカコは1981年8月25日、1983年5月1日、1985年1月9日と3回の出産例はあるが、1981年と1983年の子は3ヶ月で死亡している。1985年の子は同時期に出産した♀タマコの哺乳により3ヶ月目より育った。

III 今回の出産

1985年3月ごろ発情交尾を確認する。出産の近い♀タカコとタマコを隔離していたが、6月17日より♀タカコに乳房の腫大、陰部の粘液が認められたので室内に乾草を敷き♀タカコを隔離する。

6月18日 陰部より粘液

6月22日 乳房が張って来た、食欲旺盛

6月23日 食欲なくなり、運動量も少なくなる

6月24日 陰部より粘液、食欲なし

6月25日 乳房が張って来た

6月26日 12時より分娩はじまる

14時55分、分娩終了

哺乳について……

分娩中も異状はなく順調に生れたが、子は4時間たっても自分で起立できず、♀タカコを子と隔離して起立の練習をさせるが、5秒ぐらい立ってはすぐ倒れ、カエル座りになり、又自力でも起立しようとするが倒れながら、室内を回るだけであった。22時人用哺乳ビンで牛乳 200ccを口に流しこむ、22時30分起立させたまま♀タカコを入室させ、様子を見る。6月27日1日目

7時50分自力で起立するが、その後起立できず座ったまま♀タカコを隔離して起立の練習3回させた。

6月28日2日目

1回だけ自力で起立するが、その後は起立できず座ったまま牛乳 600cc、♀タカコを隔離して起立練習3回する♀タカコの哺乳をあきらめて人工哺乳することにして子を新キリン舎に隔離する。

6月29日3日目

酪農家に子牛用哺乳ビンを借りる。川辺町の酪農家より初乳 2.6ℓ 4人で口に流しこむ起立練習3回

4日目 初乳3ℓ、起立練習4回、尿と糞をする。

5日目 8時30分より16時25分まで5回哺乳する。3.7ℓ 飲む。

6日目 自分で乳首を吸うようになる。

8時30分より16時30分の3回哺乳をする。

自力では起立できないが、起立してもよろよろしなくなったので、歩行の練習も行う。5.1ℓ 飲む。

7日目 自分で乳首を吸い、自力で起立する歩行練習、5.2ℓ 飲む。

11日目 AD3E1 cc ずつ

自力で起立し歩行もうまくなる。

14日目 確実に1回3ℓ 飲むようになる。

22日目 ヘソの緒とれる。

28日目 運動場の砂を食べる。

30日目より35日目まで夕方まったく飲まず36日目より朝・夕として4ℓ を与える。

33日目 ルーサン、ペレットを食べている。

34日目 離乳用カーフマンナ与える。

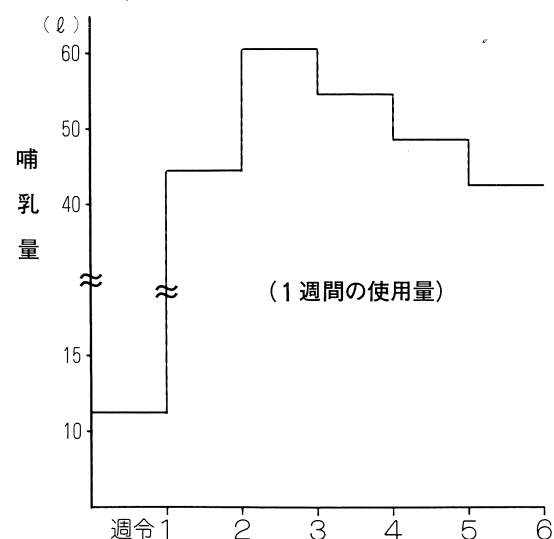
36日目 軟便の為、ポンテ使用。

37日目 ビオフェルミン ステムレックス使用。

41日目 正常便

43日目 カーフトップススペシャル(粉ミルク)使用する。カーフトップススペシャル 84日目まで使用。1日2回4ℓ ずつ。

表1 原乳使用量 272.8ℓ



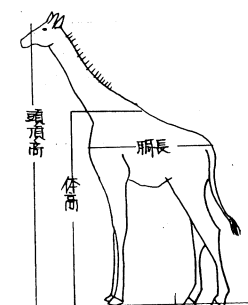
84日目以後1日1回夕方4ℓ 使用1月中旬まで

乳成分：飼育ハンドブックより

	脂肪	蛋白	炭水化物	灰分
キリン最初の10日間	12.5	5.9	3.4	1.0
10日以後	4.7	2.9	5.4	0.7
ウシ 初乳	6.7	14.0	2.7	1.11
常乳	3.5	3.3	4.5	0.72

カーフトップススペシャル カーフマンナの成分

	カーフトップススペシャル	カーフマンナ
粕蛋白質	25.0 %	25.0 %
粕脂肪	20.0 %	2.0 %
粕繊維	1.0 %	7.0 %
粕灰分	8.0 %	10.0 %
D C P	25.0 %	23.0 %
T D N	107.0 %	74.0 %
カルシウム	0.60 %	0.60 %



1987年6月26日 出産時	
頭頂高	1.76cm
体高	1.26cm
胴長	63cm
1988年6月19日 測定	
頭頂高	2.60cm
体高	1.75cm
胴長	1.55cm

IV 考察

子が自力で起立できなかった原因として、親の運動量と餌の関係で胎子が成長しすぎたのではないかとと思われる。又、出産した♀親は子育てがうまくなく今までに2頭の子を3ヶ月ぐらいで哺乳しなくなり死亡させている。今回の出産でも後産が出ず心配したが10日目に出た。

親に育てさすか、人工哺乳にするか、いろいろみんなで考えたが今では人工哺乳にしてよかったと思う。子が下痢をした場合、哺乳ビンに投薬して与えることができ、親が哺乳するのにくらべて心配はいらなかった。

「ぼくのおいたち」

平川動物公園

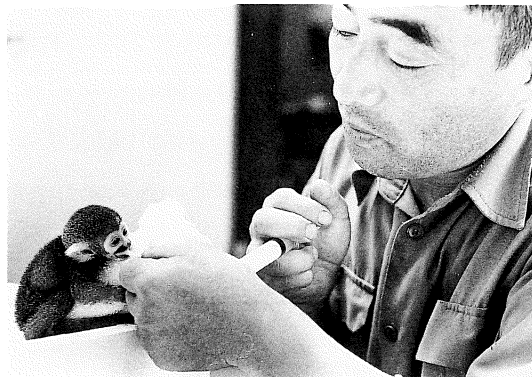
技師 外園 純 夫

僕は、1988年7月1日生まれの「リスザルの太郎」です。

自然に生息する僕の仲間の中・南アメリカの森林地帯に広く分布しているんだ。食べ物は木の芽、果物、いろんな種類の昆虫類をこのんでたべます。

僕は鹿児島生まれの「さつまの人」……いや「さつまの猿」かな、今年僕の兄弟4人(猿)が生まれました。他の兄弟はまだお母さんの背中にしっかりとつかまっているの、僕達生まれたらすぐお母さんの背中におんぶされるの、僕のお母さんは僕が生まれると次の日突然死んじゃったの、だから僕はお母さんの背中のあったかさ知らないんだ……僕死んだお母さんの背中にしっかりとつかまっていたんだって。そこを飼育のおじさんに助けられおじさんが僕のお母さんのかわりをしていてくれます。

生まれたときすぐ、おじさんが僕の身体検査をしてくれました。身長(頭胴長)12cm、尾長18cm、体重90g、身長よりシッポが長いでしょう、長いシッポはバランスをとったり枝に巻きつけてぶらさがったり、木の上で生活するのに便利なんだよ。オッパイは生まれて



(写真鹿児島新報社提供)

1週間はミルクを1回に1ccずつ2時間毎に細いゴムの管で飲ましてもらったのだから1日12ccかな、体温は36.2~36.5度ぐらい、僕はまだ体温の保持や調節ができないので、おじさんに湯タンポをいれてもらい発泡スチロールの箱のなかで安心して眠っています。

生まれて1週間、体重は生まれた時とおんなじ90g、でもねミルクを飲む量が1回7ccで1日55~65ccぐらいになっておじさんよろこんでいたよ、それからね今までおじさんの声や音は聞こえていたんだけど……なんだか物がぼんやりと見えてきたんだよ、そして10日目ぐらいからはっきりと見えてきたんだよ、びっくりしたね、おじさんの顔を見たらなんと僕とおんなじ口のまわりがヒゲで黒くしていたんだ、でもこれで安心したね、これからおじさんとお話できるからね。

あ……そうそう生まれて12日目に歯がはえてきたんだよ、上下いっしょにね。上5本、下4本、だからこのごろ歯ぐきのあたりががゆくてゴム管に噛みついたりしたんだね、体

重も100gとふえていたよ、そして初めてバナナ、ブドウを食べさしてもらったんだおいしかったね、とっても。

7月18日あんまりバナナやブドウを食べすぎて元気がなくなっておじさんすっかりあわてて、僕のおなかをさすったり体温を計ったり、夜中38度9分になって獣医さんに電話して、ほら人間用のバツファリンを削って(耳かき一杯弱)のましてくれました。お昼おなかの薬ものんだよ、そしたら熱も下がリウチもよくできるようになりました。おじさんありがとう、でも僕がおいしいといってお食べるからっておじさんのやりすぎだよ……それからまたミルクになっちゃった。今度は1回10cc~12ccで1日84cc~90ccでもね体重は100gと変化なし。ミルクが欲しいとき僕指しゃぶりするんだよ、みんなが、「かわいー人間の赤ちゃんみたい」だってさ僕、人間だよ指だって5本、手も足もみんなとおんなじだよなそうでしょう。

7月28日僕テレビにでたんだよ、きれいな姉さんの腕につかまって全国のみなさんに僕を紹介してくれたんだ、僕興奮したりビックリするとオシッコもらすんだよな一だからお姉さんの腕にもオシッコもらしちゃった。(お姉さんゴメンナサイ)

8月におじさんが僕を仲間の所へ連れていってくれた、1ヶ月のあいだに兄弟が2人(猿)生まれていた、みんな僕を見てキャーキ

ャー騒いで飛びかろうとしてきたんだよ僕はびっくりしておじさんのポケットの中に隠れてしまったよ(おじさん早く連れてかえて)と鳴いたよ。

おじさんにつくってもらった箱がせまくなった、ピョンピョン跳びはねられるようになってうれしかったね、でもさ、だんだん僕猿に似て(大人)になってゆくんだよな、おじさん達2本足で歩くのに僕手も足も使って歩かし、木に登るのがうまくなる。

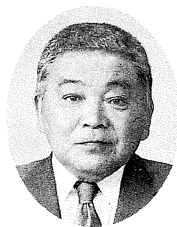
8月13日おじさんが体を洗ってあげるといって僕を強引に捕まえてシッポからお湯の中にいれてくれた、僕は水は大きらいなんだ、こわくてこわくてありったけの声はりあげて鳴いた、今まで4回もあびたんだから、このときのおじさんは大きい。体重180g、ミルク1日100cc、バナナ・ブドウもおいしくなった、体格もしっかりしてきて、ほかの兄弟みんなお母さんの背中にまだおんぶされているんだって、うれしいけどちょっぴり寂しいね。

9月3日おじさんにバツタを捕まえてもらった、はじめこわかったけどバツタを上手にとって食べられたんだよ、おいしかったねとても、でも僕がだんだん仲間に似てきたんだよね……。

9月10日 体重 240g

ミルク1日 130g~

身長 20cm



吹上浜の亀と保護

日吉町

安山 登

1. 上陸の時期

アカウミガメの上陸産卵は、毎年5月上旬にはじまり、6月・7月を最盛期として8月中旬に終わります。上陸産卵は、夜間の満潮時？でその頃、浜辺を巡視すれば亀に相遇すると昔からいわれ、確かに戦前の吹上浜ではその通り上陸していましたが、現在は潮の干満とは関係なく上陸しています。その事は、最近、鹿児島大学ウミガメ研究会の10ケ年の統計で、その事実が立証され、時には夜が明けてから上陸産卵する亀もいます。戦前戦後共にアカウミガメに違いないのに上陸産卵と潮の干満との関係が違うのでしょうか？、この事実を推察するに戦前は環境が静かで暗かったので上陸に最も都合のよい満潮時に上陸すれば歩行の距離も短かく短時間に産卵して海に帰れるからでしょうが、現在の吹上浜は、ジープやバイクが走り環境が明るく騒がしいので、亀は身を守るためにこれらを避けるから潮の干満と関係なく上陸産卵する様な気がしてなりません。

これは、暴論でしょうか。吹上浜沿岸の殆どの人達も亀の上陸は、潮の干満と関係があるといっています。

この事は、暴論と指摘されても最近の事実が大学の調査通りであるのでそれでよいと思います。

2. 亀は年3回産卵

吹上浜に上陸する亀は、5月上旬から8月中旬までに2回又は3回上陸産卵します。1回目の上陸産卵した所に同じ亀が15日後に再び上陸産卵する様ですが、それも上陸産卵と潮の干満の関係の様に今は吹上浜が騒がしいので同じ場所に再上陸は、少なくなっています。

1回目の上陸産卵が静かな環境で自然に障害なく出来た場合15日目に再上陸すると断言してよいと思います。

一度上陸した亀が何かの障害で産卵が出来ず帰った場合は、その日の内か翌日中に殆どその近くに上陸します。若し上陸して産卵が出来なかった亀が海中に産卵するものがたまにあるのは、漂着する卵で分ります。

5年前の8月中旬の事でした。殆ど亀の上陸のない頃ですが、珍しく上陸した亀がバイクで卵を探す人に見つけられ「この亀は今夜中に上陸する。」という事で2台のバイクが5料の道を絶えず走って見張っていましたが、5回も上陸しました。

それは、標識をつけていたので同じ亀でした。海中で産卵したか、遠方に上陸したと推定されます。

それから、よく亀の上陸する所は砂の粒に関係する様です。粒のあらい所に産卵し、

粒の小さい所は避けています。

3. 戦前の上陸産卵

今から60年前後の吹上浜（現在日吉町日置）では、5月になると続々と亀が上陸産卵し、卵採取を生活の糧とする者もあり、その頃、小学生のわたくしでも一夜に千個採取した事もありました。一頭の亀の産卵数も現在より遥かに多く 150個が普通で 180個を越すもありました。その頃、魚屋の店頭で砂のついたまま山積みして鶏卵の半額で売っていましたが、乳牛の飼料にされ子供等の採取したものは、隣近所分け合って食べていました。ごく僅かですが塩漬けにして腹薬に利用していました。

当時卵を採取して生活の糧にする人は、貧困者が多いので怠け者扱いにされていました。昭和16年頃、どこからとなく若い二人の亀の研究者が現れ研究していましたが、兩人共死亡した事等もあって、卵を買って食べても自ら採取はあまりしなかった様で卵の採取をする不幸があるという迷信もある様でした。

4. 戦後の上陸産卵

古文書に 300年前、殿様に卵を献上したとあり、昔も今も吹上浜沿岸住民の蛋白源として食用にされていました。特に終戦直後の食糧難の時代は卵だけでなく亀の肉その物も食用として他から買い取られていました。食糧が豊かになった最近は大都市から珍味として需要が多くなり価格も昭和56年頃から1個百

円内外で取引されていましたが、昭和60年吹上町条例が施行されて急に 200円で取引された様です。それで卵の盗掘はますます多く仲買人は、暗躍していましたが、昭和63年6月鹿児島県条例が施行されるまで大都市からの仲買人は、吹上浜沿岸住民から卵を買っていましたが、県条例施行と同時に仲買人の姿は、見られず卵を採取する人もなく戦前の静かな吹上浜になりました。

戦前、夜の浜につき物の怪談が再び登場、人影のない浜辺の墓場近い所で3人組の妙令の美女に会いましたが幽霊でもなく幻でもありませんでした。

5. 卵の保護運動

わたくしは、昭和50年頃、浜に卵採取に行き、亀の上陸が非常に少いのには驚き、せめて亀の上陸を戦前に復したいと願って少数ではありましたが、卵を採取し人工化の上放流を続け、ユース・ホステル開業と同時に青少年の野外活動の一環として、毎年亀の上陸の頃になると関東関西をはじめ東北地方からユース・ホステルを訪れる青少年をヘルパーとして10名位のグループで保護活動を続けましたが、保護活動というより野外活動といった方が適当かも分りませんでした。

昭和58年頃鹿児島大学水産学部ウミガメ研究会長秋山友宏氏が、ウミガメの研究と保護をしているのを知り、その研究を援助する目的で日吉町海岸に1坪余のフ化場を造築し研

研究会の採取した卵と合わせて人工フ化1万匹を続けているに過ぎなかったのですが、鹿児島県環境課やマスコミの精神的援助で保護精神が多くの人々に盛り上り吹上町が、単独にウミガメ条例を施行し、それから3年後、鹿児島県保護条例が施行されました。

唯わたくしは、ユース・ホステルに於ける青少年の野外活動の一環として、ほそぼそと鹿児島大学ウミガメ研究会の応援しただけで、これだけの事を楽しんでいただけです。はっきりいって自分の趣味として少々の資金と労力を費しただけで特別な研究はしていません。

6. ウミガメ条例その後

昭和63年6月海亀条例が施行されてから大都市からの卵の仲買人の姿が見えなくなり卵の盗掘もなくなりました。県費に依るウミガメの監視員や警察の盗掘防止の努力も計り知れないものがあります。

今後の課題として監視員となる人は或程度のウミガメに関する訓練を施す必要があると思います。

7. 吹上浜の潮流と段差

吹上浜は、潮流の変化が甚しく海岸に沿って平行に数百米の段差が出来て常に変化します。その段差の高さは、数十糎より1米を越す物があり亀は、段差を乗り越す事が出来なくて産卵するものが多く幸に段差を乗り越えて適当な所に産卵してもフ化するまでの二ヶ月間に波に卵が流出するものがあるばかりか、

浜に自生する草の根に卵が害されます。

更に砂丘の上部に吹上げられた砂は、粒が細目で卵のフ化には、不適當です。この現象をよく知り卵を移植しないと盗掘は、免れても何の役にも立ちません。ウミガメ保護に任ずる者は、この潮流や吹上げる砂、雑草の現象をとらえて適切な処置をしなくては、いけないと思います。そのためには、町営又は、県営のフ化場を設置して専門家に依る人工フ化をした方がよいのではないのでしょうか。現在のわたくしが管理しているフ化場は、あまりに幼稚でお粗末です。

8. 子亀のフ化と養殖

浜でフ化した亀が成長して親亀になるのはフ化の0.02パーセントで5千個の内1匹と推定されていますが、果してそうでしょうか？若しそれが事実であるとすれば行政の力でフ化場を整備してフ化したら自然脱出に放任せず早急に放流するか？夏の間或程度養殖して放流するのが効果的と思われます。推定通り5千個の内4,999個が消されるのであれば盗掘防止の功も無駄と思われてなりません。5千匹に1匹の成長の割合は、今少し調査研究して結論を出し更に飼育して一定の成長してから海水の温度の下らない内に放流するのも一方策ではないかと思われます。わたくしが10数年前人工フ化放流をはじめた頃、日置海岸に上陸した亀は、年間10頭以下でしたが、現在は、2百頭を越しています。これを人工

フ化放流の成果と断言しませんが、当時の20倍に増加しています。

9. 寒流の害

海に脱出した子亀がサメやイルカに食われる外に寒流が大きな害を及ぼしているのではないかと思われてなりません。

吹上浜でフ化され海に入った子亀の内、幸に太平洋に脱出して黒潮に乗り太平洋に出て成長するのですが、対島海流に乗り北上したものは、佐渡ヶ島あたりで千島寒流のため、水温が低下して死んでしまうのではないかと思われてなりません。これは私の暴論でしょうか？研究する必要があると思います。

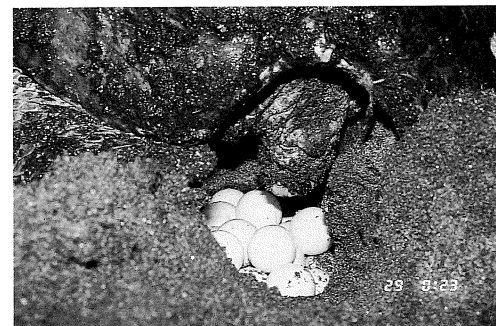
10. あとがき

わたくしは、吹上浜の海辺で生まれ育ち、夏になると亀を恋人として暗い浜をさすらい成長して教師となり40年間の大半を離島で過ごし、昭和26年文部省より実業学校教員漁労実習科の免許を受けましたが、水産科の教員として教壇に立つ機会に恵まれず、一介の小中高教師で終わりました。退職後ユース・ホステルを設立し全国から集る青少年学生を相手とし毎年夏になると亀の卵を採取人工フ化の上放流する事を趣味とし楽しんでいる唯のおじさんですが、別に研究論文があるわけではなく、唯、実践を通しては誰にも負けないと自己満足しているに過ぎません。それで今まで述べた事は、学問的根拠がある事でなく体験を通して信じているだけの事です。わたくしの所

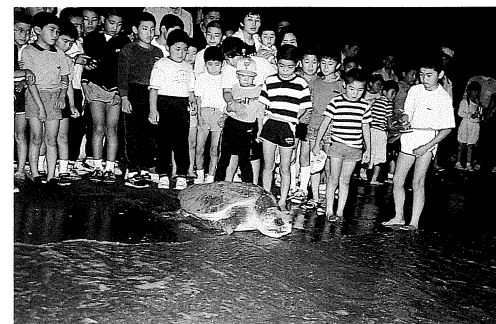
には、夏になると全国から水産、獣医、生物学等の学生さんが多数ヘルパーをして何の不平不満なしに亀の保護に協力されるのに感謝しています。わたくしは、これからもこれらの青年や亀の訪問を楽しみに生きつづけます。



▲産卵中のアカウミガメを見学中の子供たち(1988.6 吹上浜にて)
(写真平川動物公園提供)

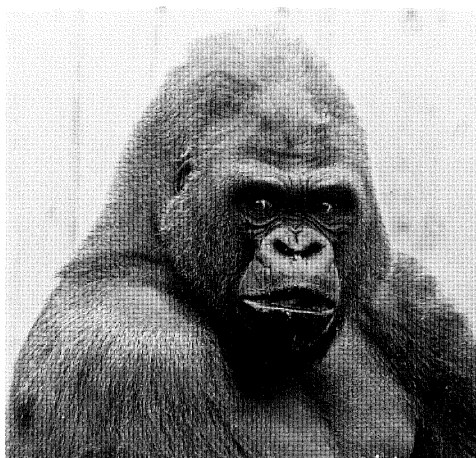


▲卵が1個2個と生れはじめました。
最後は約100個でした。
(写真平川動物公園提供)



▲産卵が終り海に帰るアカウミガメを「ごくろうさま！元気だね」と見送る子供たち。
(写真平川動物公園提供)

動物公園の顔



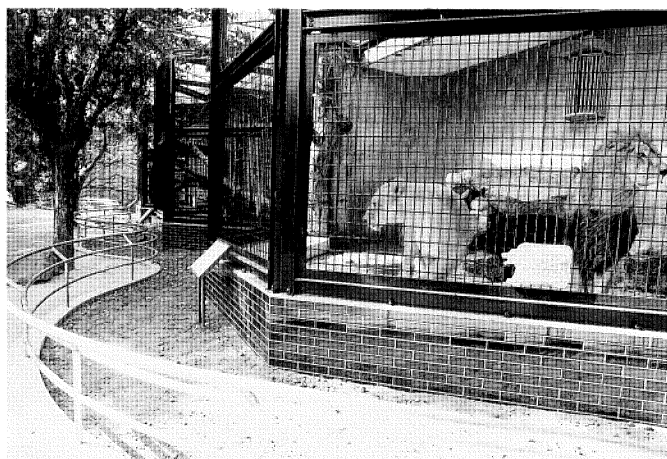
◀ ゴリラ (GORILLA)

霊長目 ショウジョウ科

学名: Gorilla gorilla gorilla

霊長類中最大、とくに上半身が巨大で、胸、腕の筋肉が発達する。鼻は横広で鼻孔が大きい。西アフリカ(ナイジェリア、カメルーン、コンゴ)に分布、低地の熱帯森林に生息し、タケノコ、セロリ、バナナの茎など繊維質の多い植物を好む。いかめしい顔をしているが、繊細な神経の持主で、おとなしく平和好きの動物である。

* 動物公園施設案内 *



◀ 猛獣舎新装！

これまでの見えにくかった太い鉄格子から、線の細いステンレス製の網に改装し、中には大きな木、岩石を配置しました。動物がまじかに大きく見えます。ライオンが大木で爪をといだり岩の上から見おろしている姿は迫力があります。

表紙題字

鹿児島市長 赤崎義則

ひらかわ No 27 昭和63年12月15日発行 第27号
発行所 (財)鹿児島市動物公園協会
〒891-01 鹿児島市平川町5669-1 ☎0992(61)2326-8
発行者 鹿児島市動物公園協会理事長 赤崎義則
編集者 鹿児島市平川動物公園長 宮園靖夫

撮影：梶原純一・酒匂 猛・久永利雄